

令和4年度 あおもりの中学生・高校生による

# 大切なあなたへ薦める 青春の一冊。

大切な仲間や友だちなどに薦めたい本の紹介文を、県内の中学生・高校生から募集し、その中から選ばれた優秀作品です。紹介文を読み、気になる本があったら、ぜひ、読んでみてはいかがでしょうか。

優秀作品集 (紹介文集)



# 目次

## 中学生の部

### 最優秀賞

- 『六畳間のピアノマン』（安藤 祐介／著）  
八戸市立江陽中学校 3年 三浦 大雅 …………… 1

### 優秀賞

- 『ある晴れた夏の朝』（小手鞠 るい／著）  
青森市立新城中学校 2年 千葉 結月 …………… 2
- 『カラフル』（森 絵都／著） 八戸聖ウルスラ学院中学校 3年 田中 未来 …………… 2
- 『かがみの孤城』（辻村 深月／著）  
青森県立三本木高等学校附属中学校 2年 高橋 一花 …………… 3
- 『よるのばけもの』（住野 よる／著）  
青森県立三本木高等学校附属中学校 2年 小島 あやめ …………… 3
- 『かがみの孤城』（辻村 深月／著） 八戸市立江陽中学校 1年 工藤 彩葉 …………… 4

## 高校生の部

### 最優秀賞

- 『元女子、現男子。忘りたい過去もある。けど、それを含めて僕だと気づいた。』（木本奏太 かなたむ。／著） 青森県立青森聾学校 高等部 3年 古川 瑛梨奈 …………… 5

### 優秀賞

- 『君の臍臓をたべたい』（住野 よる／著）  
青森県立八戸商業高等学校 1年 川畑 悠 …………… 6
- 『往復書簡』（湊 かなえ／著） 青森県立七戸高等学校 3年 岡山 花梨 …………… 6
- 『ママがもうこの世界にいらなくても 私の命の日記』（遠藤 和／著）  
青森県立浪岡高等学校 3年 奥瀬 蛍 …………… 7
- 『よるのばけもの』（住野 よる／著）  
青森県立鱒ヶ沢高等学校 3年 神 楓真 …………… 7
- 『一瞬を生きる君を、僕は永遠に忘れない。』（冬野 夜空／著）  
青森県立五所川原工科高等学校 2年 成田 寛人 …………… 8

- 奨励賞・審査員賞一覧（中学生・高校生） …………… 9

## 中学生の部

最優秀賞

### 『六畳間のピアニスト』(安藤 祐介/著)

八戸市立江陽中学校 3年 三浦 大雅

学校に行くのが嫌になることがよくある。友達と喧嘩した、先生に怒られた、理由は様々だ。しかし、私は学校を休まない。仲の良い友達と話したいから、それだけの理由で。重い言葉で言えば、それが私の「生きがい」になっているのだ。営業マン、居酒屋の店長、派遣社員など、いくつかの職業の人が作品に登場する。各々が多様な悩みをもち、過去を背負っている。身を粉にしながらも「生きがい」のために働く。それは、仕事終わりのビールだったり、客の喜ぶ顔だったり。悲しみや後悔を乗り越え、彼らは前進していく。学校に行くのが疲れた人、部活動が嫌になった人、そして、困難が待ち受けているであろう世の中で働く、将来の自分に薦めたい一冊だ。



KADOKAWA/角川文庫

審査評

誰も気が滅入るような出来事に遭遇したり、尽きぬ悩みにさいなまれたりするのが人生というものかもしれない。けれども、「生きがい」があれば、人は前へ進むことができる。それを教えてくれたのが、多種多様な登場人物であった。将来の自分も含めて、解決しがたい困難を前に、心疲れている方々にこの一冊を薦めたいという優れた感性は、賞賛に値する。

『ある晴れた夏の朝』（小手鞠 るい／著）

青森市立新城中学校 2年 千葉 結月

終戦から77年。みなさんは今の生活が平和だと思いますか。この本は、アメリカに住む高校生が第二次世界大戦中に広島・長崎への原爆投下は必要だったのか、肯定派・否定派に分かれて議論を行う話である。戦争経験者の高齢化が進む中で、記憶の継承の重要性は高まっている。私の祖父は、戦争当時4歳だった。当時のことを尋ねてみると、「はっきり覚えているが、思い出したくない」と答えた祖父。この一言から戦争の恐ろしさが伝わってきて、それ以上聞けなかった。私達は、戦争という過ちを二度と繰り返してはいけない。これからの未来を担う私達が平和を創造するために大切なことについて、考えることができる一冊である。



偕成社

審査評

読書で知り得た戦争経験のないアメリカの高校生による議論。語るに語れない忌まわしい過去を背負う祖父から伝えられた言葉。これらを重ねていくことで、二度と繰り返してならない戦争についての理解を深めている。世界の至る所で、紛争が絶えない現在、唯一の被爆国として、平和を創造する私達が読むべき一冊という推薦文には、力強い説得力がある。

『カラフル』（森 絵都／著）

八戸聖ウルスラ学院中学校 3年 田中 未来

「あそこでみんなといっしょに色まみれになって生きていこう。」死んだ人間の魂である主人公が生者の世界へ戻る場面。その中のこの一文が、私の心には最も深く残った。私は魂ではなく生きている人間だが、主人公と同じように心を持っている。例えば成績が下がって辛い時や、物事がうまく進まず焦っている時、私はつい後ろ向きな考えをしてしまう。それが原因で人を傷つけたこともたくさんある。でもこの本では、そのようなマイナスな感情を悪いものではなく、その人だけが持つ「色」として、優しく包み込むように描いている。そして、読み終えた人の心をよりカラフルに塗り替えてくれる、悩みや生きづらさを感じている全ての人に薦めたい一冊だ。



文春文庫

審査評

誰も思い通りに生きられないし、否定的な感情を抱き、後ろ向きに考え、行動することもある。だが、それがその人なりの「特色」なのだ。だから、この世はカラフルに染まっていく。カラフルな世界で色まみれになって生きようとする主人公に寄り添う時、人生の本当の意味に触れるのだと思う。それを教えてくれるこの本を薦めてくれたことに感謝したい。

## 『かがみの孤城』（辻村 深月／著）

青森県立三本木高等学校附属中学校 2年 高橋 一花

この本は、生きづらさを感じている中学生7人が自宅の鏡を通して入った世界で「鍵探し」を行う。すべての謎が明らかになるとともに涙があふれてくる。そんなお話です。私は、この主人公「こころ」と同じように不登校の時期がありました。こころが感じた「理解されない」そんな気持ちがよく分かります。自分の本当の気持ち、考えが他人とすれ違い、一気に話せなくなる。だから、人目を気にして悪目立ちしないことだけを考える。そんなことが日常になり、どんどん自分の首が絞まって、息ができなくなる。そして、ひきこもる。そんな、息もできないような生活をしている人に、ぜひ読んでほしいと思います。きっと、息がしやすくなるはず。



ポプラ社

審査評

中学生7人による鏡の中での「鍵探し」の物語と、自分の不登校体験とを重ねて、「理解されない」ことの息苦しさについて考えを深めている。人目を気にして引きこもる辛さが共感できるから、全てが明らかになったときの衝撃と感動は大きい。同じ悩みを抱える人にこそ、日常を乗り越える手段として、この本を読んでほしいという強い願いが感じられる。

## 『よるのばけもの』（住野 よる／著）

青森県立三本木高等学校附属中学校 2年 小島 あやめ

「どっちが本物か」思春期の私たちは、周りの目が怖くて、偽りの自分を演じている。誰からも嫌われない自分を。この本では、夜に化物になる僕が、本当の自分を見つける物語だ。この本を読んで、私は、学校での自分に対する考え方が変わった。時に、自分と相手が違うから、その違う方に無理に合わせようとしていた。でも、私は誰とも一緒じゃない。違うことが当たり前で、だから相手の考えていることは分からなくてもいい。本当の自分というのは学校での自分、家での自分、全部が本物だということを感じさせてくれた。現実はあるようにいかないうことが多いけれど、人間関係に後ろ向きになった時、この本はあなたに考え方のヒントをくれるはずだ。



双葉社

審査評

嫌われたくないという不安から、偽りの自分を演じ続けるとしたら、本当の自分はどこにいるのか。夜の化物が、本当の自分なのか。そうではないはずだ。自分と相手とは互いに違う。それが当たり前で、それを受け入れることから、本当の自分が見えてくる。自己理解へと導いてくれるこの一冊を薦めてくれたこと自体、本当の自分に気付けた証である。

## 『かがみの孤城』（辻村 深月／著）

八戸市立江陽中学校 1年 工藤 彩葉

7人の中学生とオオカミの物語。この7人には不登校という共通点がある。私には保育園からずっと一緒の、不登校の親友がいる。いつしか学校に來れなくなった彼女に対して「私だって学校嫌いなのに、ズルい」という気持ちと「どういう言葉を掛ければよいかな」という気持ちを私は抱いていた。そんなとき、姉にこの本を薦められた。7人の中学生が葛藤する姿がそこにあった。彼らも学校に行きたがっている。私は読みながら泣いていた。「ズルい」という気持ちは一切無くなり、「偉い」という気持ちに変わった。この本は、不登校の子が周りにいる人にも、不登校に関心がないという人にもぜひ手にしてほしい一冊だ。



ポプラ社

審査評

不登校を続ける友人に言葉をかけようにも、「ズルい」以外の言葉が見つからない。そんな折、姉に薦められた本では、不登校の中学生7人が、鏡の中の世界で葛藤している。様々な出来事が交錯する中、誰も学校に行きたいのは同じなのだ。だから涙が出る。姉がしてくれたように、この一冊を広く紹介していくことで、心が救われる人もいるはずである。



## 高校生の部

最優秀賞

『元女子、現男子。忘れたい過去もある。けど、それを含めて僕だと気づいた。』（木本奏太 かなたいむ。／著）

青森県立青森聾学校 高等部3年 古川 瑛梨奈

筆者は、女性として生まれ、現在は男性として生きている。彼は性同一性障害である。「特別扱いしてほしいわけでも、かわいそうに思ってほしいわけでもない。」という彼の思い。私も同じ思いをした経験がある。私は耳が聞こえない。最近、私は陸上競技で新聞にとりあげてもらった。しかし、見出しに「ハンディを乗り越え開花」と書かれていた。障害をもっているのにすごいとされているようで複雑な気持ちだった。彼のように、みんなと同じように普通に生きているのだと知って欲しいと思った。「自分らしく」とは何かとずっと思っていたが、この本を読んで、やっと答えが分かった気がする。皆さん、社会の中で一番大事なものは何なのでしょう。



KADOKAWA

### 審査評

「社会」で生きるために人は「社会」を受け入れることを強いられます。新聞記事をめぐる古川さんの言葉から、「自分らしさ」が特別な何かを残した人にしか認められない世の中はととても不自由な環境なのだ改めて思いました。古川さんと同じ気持ちで毎日をしのいでいる高校生は実はかなり多く存在します。古川さんのメッセージは彼らにとって大きな意味を持つと確信し、高く評価しました。

## 『君の臍臓をたべたい』(住野 よる／著)

青森県立八戸商業高等学校 1年 川畑 悠

臍臓の病を持つ彼女は言った。「私も君も1日の価値は変わらないんだよ。」私はこの言葉に胸を打たれた。この本は関わるはずのない2人が1つの日記によってお互いの人生を変える存在になっていく物語だ。私は祖母を病気で亡くしたときに命の尊さを初めて身近に感じたと同時に、いつも過ごしていたはずの日常が特別になる感覚を体験した。この本は私たちの日常を病人の視点で宝物のように描いている。学校の制服、チャイムの音や皆が居る教室。私が過ごす日常は誰かの特別だと強く感じさせる一冊だと思う。過ごしている日常の「何か」が変わる瞬間、そして衝撃のラストを全国の学生はもちろん大人の方々にもぜひ迎えて欲しい。



双葉社

審査評

読書の機能の一つは経験の意味を自身の中でより明確に言語化させてくれる点にあります。登場人物の心情に触れながら、川畑さんは祖母と心を通わせた日々と喪失の経験を作中の言葉に寄せ、日常と世界を捉え直すことができました。同じようにこれからの世界を生きる若者にも、この作品を読むことが不確実な未来を受け止める準備の機会になると気づかせてくれるはずです。

## 『往復書簡』(湊 かなえ／著)

青森県立七戸高等学校 3年 岡山 花梨

この本は、手紙のやり取りだけで進む短編小説が3作収録されています。3作目の「十五年後の補習」は国際ボランティアに赴任した恋人同士の手紙です。手紙を書くことで、なかったことにしようとしていた、友人が亡くなった過去の事件と向き合え、隠し事や嘘、誤解、記憶違いが明らかになっていき、まさかの真実が見えてくるどんでん返し連続のハラハラドキドキミステリーです。私は遠くに住む祖母との手紙には本音を書け、何度も助けられてきました。手紙には人の本当の心が表現できる魔法があります。便利な時代の今だからこそ時間と手間のかかる手紙を書いてほしい。そんな願いを込めて、手紙を書きたくなるこの本を私はお薦めします。



幻冬舎

審査評

「手紙には人の本当の心が表現できる魔法がある」。なぜかしらSNSでのコミュニケーションとは異なり、手紙には人の思いが増幅して記されます。手紙をしたためる際は、嘘も用意周到で念入りにできるものです。真心もしかり。手紙はミステリーを演出するにも最適な道具だと言えます。作品への期待を膨らませ、手紙の魔力を感じたいと思わせてくれた岡山さんの推薦文を高く評価しました。



## 『ママがもうこの世界にいらなくても 私の命の日記』

(遠藤 和／著)

青森県立浪岡高等学校 3年 奥瀬 蛍

21歳で大腸がんステージⅣを宣告され、22歳で結婚、命がけの妊娠出産を最後まで諦めなかった闘病生活を記した日記中心の一冊です。私の父もがんで入院したことがあり、お見舞いにもよく行っていました。だから、家族の不安や怖さにも共感することが多く深く読み込むことができました。この本は、妊娠や出産した時の喜びやうれしさ、闘病の辛さ家族との別れなど禍福の振れ幅の大きさに驚かされました。日記という部分では本人のこれまでの心情が強く伝わり感じることができます。家族の愛や命の大切さが改めて身に染み込み初めて本で感動を知ることができました。自分のことも家族のことも大事にしていきたいと思える一冊です。



小学館

審査評

新型コロナウイルスやロシアによるウクライナ侵攻など人間の「生」が翻弄される現在にあって、「命」の尊さ、人の絆を感じさせてくれる作品です。本の内容とともに体験と重ね合わせた奥瀬さんの深い共感が伝わります。きっと読者は同じ感動を味わうことになります。この作品を手にしたいと素直に思うことができる推薦文だと評価しました。

## 『よるのばけもの』(住野 よる／著)

青森県立鱒ヶ沢高等学校 3年 神 楓真

この本を読んで昔の自分を思い浮かべた。本の内容はクラス全員に軽蔑され、いじめを受けている女子と夜の時間だけ黒い化け物になる男子の物語だ。夜に学校に入ることができる昼休みならぬ夜休みという時間を使い、互いの考えを理解し合っていく。私は以前、他人を不快にさせるような行動を同級生にしていた。それまでしてきたことを、今では深く反省している。本の中の男子は夜休みを何日も使い、その女子の言動や行動を理解していった。私は自分にもそんな時間があったらな、と今更ながら思い、今までの行動を後悔した。最後までこの本を読んだ時、本の中の男子が最後にとった行動を尊敬した。人を外見で判断しがちな人にぜひ読んでほしい。



双葉社

審査評

自己を省みる機会を与えてくれた作品を、実体験のもとに切実な思いで紹介してくれました。この作品を必要とする人はたくさんいるはずですが。無知から生じる言動がどれほどみにくいものなのか、「いじめ」の構造を俯瞰し、読者は作品の登場人物一人ひとりを見つめることで「罪」の重さを実感できます。作品のテーマは現代の中高生にとっての生活課題です。推薦に値すると高く評価しました。

# 『一瞬を生きる君を、僕は永遠に忘れない。』(冬野 夜空/著) 青森県立五所川原工科高等学校 2年 成田 寛人

私は、この本を以前にも読んだ事がある。読み終えた時に感じた事は「儚さ」。それは命の儚さ、時間の儚さだ。今私には、重い病を患っている祖母がいる。完治はもう厳しいと父から聞いた。その時、この本を思い出した。この本は、重病を患う少女と、恋をしない、死んでも悲しまないなどの約束で少女のカメラマンをする少年の関係を描いた物語。恋愛小説ではあるが、命の尊さや生きる事の輝きを感じさせてくれる。私はこの本を読み、大切な人に何が出来るかを考え、祖母に手紙を書いた。私はこの作品を、大切な人がいる皆に薦めたい。私のように、大切に思う人との繋がりを、今この一瞬も大切にしたい。



スターズ出版

## 審査評

本の内容と自己の体験等が巧みに織り込まれた推薦文です。自分の人生を確かな意味のあるものにしなければと考えさせてくれました。成田君はこの本を通じて祖母への思いを手紙に込めるといった現実の行動へつなげました。人と人とのつながりを大切にとするメッセージは自然とこの本を手に取りたいという思いにさせてくれました。



中学生の部

奨励賞一覧

- |                                    |                 |        |
|------------------------------------|-----------------|--------|
| ■ 『神様のカルテ』(夏川 草介/著)                | 八戸聖ウルスラ学院中学校 3年 | 小西 ゆりあ |
| ■ 『サンドイッチクラブ』(長江 優子/著)             | 十和田市立東中学校 1年    | 柏木 菜々莉 |
| ■ 『52ヘルツのクジラたち』(町田 そのこ/著)          | 八戸市立下長中学校 3年    | 小笠原 楓乃 |
| ■ 『彼女が好きなものはホモであって僕ではない』(浅原 ナオト/著) | 七戸町立七戸中学校 1年    | 竹内 莞那  |
| ■ 『青春ゲシュタルト崩壊』(丸井 とまと/著)           | 東北町立東北中学校 2年    | 山田 怜奈  |
| ■ 『父へ母へ。100万回の「ありがとう」』(PHP編集部編)    | 弘前市立津軽中学校 1年    | 石田 妃時  |
| ■ 『トリプル・ゼロの算数事件簿』(向井 湘吾/著)         | 八戸市立湊中学校 2年     | 松長 瞭   |
| ■ 『ママがもうこの世界にいないても 私の命の日記』(遠藤 和/著) | 青森市立南中学校 1年     | 奥平 虹来  |
| ■ 『天気の子』(新海 誠/著)                   | 青森市立南中学校 1年     | 安田 咲希  |

審査員賞一覧

- |                                       |              |        |
|---------------------------------------|--------------|--------|
| ■ 『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』(汐見 夏衛/著)      | 八戸市立湊中学校 2年  | 志民 ひより |
| ■ 『私は私のままで生きることにした』(キム・スヒョン/著 吉川 南/訳) | 青森明の星中学校 1年  | 神田 杏花里 |
| ■ 『君が落とした青空』(櫻 いいよ/著)                 | 五戸町立五戸中学校 1年 | 佐々木 菜緒 |

高校生の部

奨励賞一覧

- |                                       |                   |        |
|---------------------------------------|-------------------|--------|
| ■ 『余命10年』(小坂 流加/著)                    | 青森県立八戸商業高等学校 1年   | 蝦名 佳蓮  |
| ■ 『内戦の地に生きる フォトグラファーが見た「いのち」』(橋本 昇/著) | 青森県立八戸西高等学校 1年    | 前山 朝香  |
| ■ 『ひと』(小野寺 史宜/著)                      | 青森県立青森聾学校 高等部 3年  | 北畠 慎太郎 |
| ■ 『魔王』(伊坂 幸太郎/著)                      | 青森県立青森工業高等学校 2年   | 田中 夢乃  |
| ■ 『お探し物は図書室まで』(青山 美智子/著)              | 青森県立木造高等学校深浦校舎 3年 | 中林 千花  |
| ■ 『舟を編む』(三浦 しをん/著)                    | 松風塾高等学校 3年        | 山本 大貴  |
| ■ 『そして、バトンは渡された』(瀬尾 まいこ/著)            | 青森県立青森聾学校 高等部 2年  | 中美 優太  |
| ■ 『かがみの孤城』(辻村 深月/著)                   | 青森県立弘前実業高等学校 2年   | 藤田 あかね |
| ■ 『一切なりゆき～樹木希林のことば～』(樹木 希林/著)         | 青森県立大間高等学校 3年     | 泉 堅心   |

審査員賞一覧

- |                                       |                  |        |
|---------------------------------------|------------------|--------|
| ■ 『人間失格』(太宰 治/著)                      | 八戸聖ウルスラ学院高等学校 1年 | 下川原 百音 |
| ■ 『木曜日にはココアを』(青山 美智子/著)               | 青森県立五所川原高等学校 1年  | 木村 柑南  |
| ■ 『よけいなひとを好かれるセリフに変える言いかえ図鑑』(大野 萌子/著) | 青森県立三戸高等学校 2年    | 岡山 那優多 |

## 中学生・高校生の皆さんへ

青森県教育委員会では、県内の中学生・高校生の皆さんを対象として、仲間や友だちなどへのお薦めの本の紹介文（200～300字程度）を募集しました。

今年度もたくさんの応募（[中学生の部] 1,142点、[高校生の部] 2,938点）をいただき、その全ての作品から、皆さんの「お薦めの一冊」への思いが感じられました。

この作品集では、応募作品の中から、厳正な審査により最優秀賞・優秀賞に選ばれた計12作品を紹介しています。また、奨励賞・審査員賞を含む全ての優秀作品については、県教育委員会のホームページで読むことができます。

これらの紹介文を読んで、実際に図書館や書店で本を手にとって、読んでみてください。そして、ぜひ、皆さんそれぞれのお薦めの本を仲間や友だちどうして紹介し合ってみてください。

皆さんにとって、心に残る本との出会いが、これからの人生をより深く生きるための力となることを願っています。

青森県教育委員会

青森県 青春の一冊

検索

ホームページでは、最優秀賞、優秀賞のほか、奨励賞、審査員賞の作品も掲載しています。



### 【審査員】

青森県立八戸中央高等学校	校 長	吉田 繁徳
青森市立南中学校	校 長	渡邊 諭
株式会社成田本店つくだ店	店 長	川村佳代子
津軽地区読書推進運動連絡会	監 事	片山 良子
八戸学院大学短期大学部幼児保育学科	客員教授	茂木 典子
青森県教育庁生涯学習課	課 長	渡部 泰雄

発 行

青森県教育庁生涯学習課企画振興グループ

〒030-8540 青森市長島1-1-1

TEL 017-734-9888 FAX 017-734-8272

発行／令和5年3月